

平成 27 年度水産研究所研究成果発表会開催

平成 28 年 3 月 15 日、岡山市のピュアリティまきびにおいて、水産研究所は研究成果発表会を開催した。この発表会は、水産業界関係者をはじめ広く県民に当研究所が行う研究開発の成果の一端を紹介し、理解と関心を深めてもらうことを目的として平成 24 年からはじめたもので、当日は漁業者及び漁業関係団体、県市町関係職員、大学等教育機関、一般県民等 53 名が参加し、口頭発表 4 課題、ポスター 5 課題の展示と意見交換を行った。

口頭発表ではまず、水圏環境室の山下研究員が「連続観測モニタリングの可能性～豊かな海に向けて～」と題して、牛窓沖の水温連続観測とノリ漁場における硝酸塩連続観測について紹介した。アンケートで、「連続観測のデータが研究のみならず、ノリ生産に活用されている現状を知ることができた。今後、DIN 減少の原因が分かり、改善されることに期待します。」等のご意見をいただいた。

次に、開発利用室の泉川専門研究員が「アサリを増やす」と題して、アサリ資源の減少要因と浅口市寄島町の人工干潟において検討した増殖手法を紹介した。アンケートで、「岡山のアサリが壊滅状態にあると聞いて驚いた。人工干潟で増やす方法等が見つかりつつあるようで、さらなる研究に期待します。」等のご意見をいただいた。

次に、資源増殖室の竹本技師が「今、トラフグ資源が危ない～トラフグ資源の現状と資源回復に向けて～」と題して、資源の減少が著しいトラフグの岡山県沿岸における幼稚魚の分布・移動及び漁獲実態に関する調査結果を紹介した。アンケートで、「岡山でトラフグが採れるということを知って驚いた。しかも、これまでほとんど実態については不明ということで、研究の大切さを感じました。」等のご意見をいただいた。

さらに、開発利用室の中力専門研究員は「漁業者と取り組む資源管理型漁業～小エビの資源保護を目的とした取組～」と題して、笠岡市北木島の漁業者とともに取り組んだ小型底びき網漁業におけるサイズの異なる網目を用いた試験結果と漁業者の取組を紹介した。アンケートで、「現場との密着した研究で、経営の視点が入っていたことが実に分かりやすくて良かった。」等のご意見をいただいた。

このほかに、「海の栄養塩環境と漁業生産量」、「産地の異なるシラウオの遺伝的な差異」、「モクズガニ資源回復の取り組み」、「美味しい地魚の消費拡大を目指して」、「省エネ運転で漁業コストを減らそう」といった最近の調査研究を紹介したパネルを展示した。

今回の成果発表会を通じて、豊かな海を実現するため課題解決に向け取り組むことが私たちに課せられた責務であることを再認識した。最後に、当日参加していただいた皆様方、開催にあたりご協力いただいた関係各位に改めてお礼を申し上げます。(資源増殖室:近藤)



萱野所長あいさつ



発表風景